

Mini Bus Tour!

—Exploring Yamaguchi—

代表者 小島清一（創成M2年）
構成員 孟繁紅（東アD2年） 斉藤毅（国際B4年） 藤井脩大（経済B3年）
松熊菜々子（経済3年） 武田修馬（理学B3年）
岡佳弘（経済2年） 前田昂佑（国際B2年）
Elizabeth MoeyErnYing（経済B2年） Hung YuSyong（経済B2年）
梶浦果鈴（理学2年） 山下波父（理学2年）

1. 概要と目的

山口県には角島や秋吉台などの景勝地や、萩城跡などの史跡名所など多くの観光名所がある。しかし、山大留学生の間では、山口県内の観光名所を回ってみたいが、どこにいけばいいのかわからない、車がないため行きたくても行けない」という声が多い。そこで本プロジェクトでは、山大留学生を対象とするバスツアーを実施する。バスツアーでは、留学生とともに山口県内の観光地を訪れ、観光地としての魅力や将来性を調査します。調査結果はバスツアー報告会を通して広く共有し、観光政策に興味を持つ山大学生に新たな知見を提供することを目指す。

本プロジェクトでは、SDGs(Sustainable Development Goals)を意識した調査を行う。SDGsとは国際連合によって定められた17の目標である。その目標は気候変動や貧困問題、健康問題など多岐に渡る。今回のバスツアーでは、①保健・健康②働きがいと経済成長③技術革新④景観・街作り⑤環境の5つの観点から調査をする。ただ観光地として魅力的であるというだけではなく、地域社会や人類全体にとって真の意味で有益な観光地こそ良い観光地であるという考えのもと、山口県の観光地の魅力と課題を調査する。

2. バスツアーの事前準備

本プロジェクトは、8月に活動を開始してからこれまでにバスツアーの準備及び実施までを終了した。本節では、バスツアー実施までの準備活動に関して報告をする。

バスツアーの準備は、まず留学生に対して山口県の観光地に関するアンケート調査を行うことから始めた。アンケート調査では、交換留学生の多くが帰国する時期にも関わらず30名の留学生から回答を得ることが出来た。調査結果においては、知っている観光地として「秋吉台」「防府天満宮」が最も多く挙げられており、「角島」や「錦帯橋」が後に続いた。一方、センザキッチンなど道の駅の知名度は非常に低く、また、「弁天池」や「松下村塾」などの観光地の知名度も低かった。アンケート調査が終了した後、8月の中ごろにはバスツアーの行程を決定した。時間の都合上、岩国や防府は断念し、美祢市、萩市、長門市を観光するコースを策定した。コースの詳細については次節で述べる。9月上旬には、参加者募集の準備を開始した。まず、募集のためのチラシ及び申込み用紙を作成し、留学生に送信するメールの文面を考えた。また、この時期には、SDGsと絡めつつどんな観点から留学生に山口観光をしてもらうかについての事前調査を進めた。事前調査をする際には、2名ずつの班に分かれて各班でテーマを決めて調査をした。テーマは、①保健・健康②経済成長③技術革新④景観・街作り⑤環境の5種類である。各班の事前調査の概要は次頁の表1に示した。SDGsの具体的な調査を始めて気づいたこととしては、日本では身近なこととして捉えづらいシリアスなものも多いということであった。例えば、保健・健康について、マラリアや結核に関する問題などは、身近なこととしては捉えづらく、観光と絡めて議論するのは難しそうであった。9月末には、参加者募集を開始した。参加者募集から募集締め切りまでに70名近くの応募があり、留学生の山口観光に対する関心の大きさを実感した。10月中旬には、参加者を決定し、参加者名簿や旅のしおり（次頁の図1に示した）の作成や事前打ち合わせの日程調整を行った。この際、申込用紙に電話番号を記入する欄を設けていなかったため、当選が確定したにもかかわらず連絡がつかない留学生が多く（おそらくメールを読んでいないためであると考えられる）、事前打ち合わせの日程調整は非常に困難な作業であった。この点は、バスツアーの準備に関する非常に大きな反省点であった。その後、無事に人数を確保して参加者を決定し、保険の手続きや顔合わせ会を完全に終了したのはバスツアー直前の10月31日であった。もう少し余裕を持って計画を進めるべきであったと思う。

表1 SDGsの事前調査の概要

保健・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ センザキッチンなど道の駅で売られている食品は非常に健康によい ・ 山口県の観光地の道路（萩城下町など）や飲食店は衛生的である <p>→ 健康面・衛生面から山口の観光地を見直せば、他の国や他の県の観光地にはない新しい魅力が発見できるのではないかな？</p>
働きがいと経済成長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長門市では近年観光客が急増しており、この原因はメディアで元乃隅稲荷神社が大々的に取り上げられたことであるという ・ 萩焼きは古くから萩の経済を支えてきたが、近年後継者不足や需要の低迷などの問題に直面している <p>→ 自然や伝統文化を守りながら地元の経済を潤す仕組みづくりはあるかな？ SNSやメディアを利用した知名度向上の取り組みはあるかな？</p>
技術革新	<ul style="list-style-type: none"> ・ 角島大橋では、海域環境への影響を最小限に抑えるためにプレキャスト工法が用いられており、学会から表彰も受けている ・ 美祢市で採掘された石灰岩はセメント工業などに利用され、地域の採掘技術や加工技術を高める役割を果たしてきた <p>→ 地域の特色と技術が上手く組み合わせることで、観光地としての魅力が高まる可能性はないかな？あるいは逆に観光地としての魅力を高めようとして技術が発展することもありうるのではないかな？</p>
景観・街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋吉台や萩城下町では規制によって建物の基調色が決められている ・ センザキッチンは、長門市の特産品や海に近いという環境をもとにデザインされており、グッドデザイン賞を受賞している <p>→ 山口県の観光地で行われている景観保護活動は、留学生の観点から見て妥当と思われるかな？何か問題はないかな？</p>
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦後、秋吉台はアメリカ空軍の演習場となる予定だったが、住民の反対運動によって阻止され、自然破壊を防ぐことが出来た ・ 角島大橋の写真は遠くから撮った写真が多く非常にきれいだが、橋のふもとにはゴミが非常に多く環境に悪影響を与えている <p>→ 観光地化することによって環境が破壊されるという問題は起きていないかな？環境を保護するための地域的な取り組みは存在するかな？</p>



図1 旅のしおり（日本語版の2ページ目のみ）

3. バスツアーの様子

本節では、バスツアー実施の際の様子を報告する。バスツアーには合計 27 名（吉田キャンパスより 26 名，常盤キャンパスより 1 名）の留学生が参加した。ツアー当日には、この 27 名の留学生を SDGs の各テーマに応じて 5 班に分け、各班には事前調査を担当した構成員（11 名）がガイドとして付き添った。

まず、バスは 8 時 40 分に吉田キャンパス第一体育館前を出発し、シェアハウスで合流する留学生たちを乗車させて秋吉台に向かった。9 時 30 分には秋吉台に到着し、1 時間 30 分自由に散策をしてもらった。秋吉台では、留学生たちは地元の環境ボランティアの方から、地域の人々による野焼きによって自然環境が維持されていることについての説明を受けていた。また、景観保護のために、えんじ色と白色を基調とした建物が多いことを確認していた。その後、11 時 30 分には弁天池に到着した。弁天池では、ガイドの構成員が神社への参拝の仕方などを留学生に教えていた。



図 2 弁天池での見学の様子

12 時 30 分には、予定より早く松陰神社に到着し、松陰神社を見学してもらった後、萩城下町を観光してもらった。萩城下町では、信号機の色が周囲の景観に合わせて茶色であることに留学生たちは驚いていた。15 時 20 分にはセンザキッチンに到着し、見学をした。センザキッチンでは、イカ焼きなどを買って美味しそうに食べている留学生の姿が印象的であった。その後、17 時 00 分には角島大橋に到着した。角島大橋では、技術班の構成員が留学生にプレキャスト工法について説明をしていた。角島大橋を渡る前に、環境班は海岸のゴミ拾いのためにいったん別行動となり、他の班は角島灯台に向かった。18 時 00 分に角島灯台についたころにはすでに暗くなっていたが、留学生たちは、夜の灯台を見てそのきれいさに感心していた。その後、ゴミ拾いを終えた環境班をバスに乗せて、大学への帰路についた。



図 3 センザキッチンで夕日を眺める留学生たち



図4 角島大橋のふもとでのごみ拾いの様子

4. バスツアーを終えての感想

バスツアーを終えての感想として、まず留学生の山口観光に対する関心の大きさに非常に驚いた。応募数が70近いという事実は、山口大学に在籍する留学生のうち、かなりの割合が山口観光に興味を持っていることを示していると考えられる。ツアー参加者と話していた際には「山口県の観光名所は車がないと不便な場所が多く、距離的には遠い東京や大阪よりも山口の観光地の方がある意味行きづらい」という意見が多かった。

もう一つ印象に残ったのは外国人を対象として観光バスツアーを実施することの難しさである。保険の手続きや連絡体制の確立、行程の決定など、事務作業の煩雑さはもとより、お互いの言語や文化が異なることによって、多くの困難が生じた。しかし、こうした困難の中でも、各構成員が担当した業務をしっかりと実行してくれたことにより、多くの留学生を連れて一度の遅刻もなくバスツアーを実施することが出来た。今回のバスツアーの準備では、構成員全員が重要な役割を果たしており、それぞれにとって良い勉強となった。また、保険のことや予算のことなどに関して、学生だけでは気づけないことも多く、学生支援課の重松さん、学生自主活動ルームの辻先生、石井さん、支援教員の中野先生よりご指摘を頂いてその都度修正することで安全で本格的なバスツアーになったと思う。角島灯台に行ったときに、ある留学生が「山口にこんなにきれいな場所があるとは知らなかった。このバスツアーがなければ、この場所の存在を知らないまま帰国していただろう」と言ってくれたときには、困難を乗り越えてバスツアーを無事に実施出来て本当に良かったと感じた。

5. 今後の活動予定

今後の活動は、調査結果の最終発表の準備がメインとなる。11月中は各班でバスツアーの振り返りをしてもらう予定である。各班で事前調査した事実を現地で実際に見てみて、留学生がどのようなことを感じ、学んだのかを改めて振り返り、スライドにまとめるという作業を行う。12月には最終発表の予行発表を行う。ここでのフィードバックを参考にしつつ最終発表に向けて内容をまとめ直し、1月に最終発表を行う。2月及び3月は、プロジェクト全体を通しての反省会及び総括を行う。